

2025年 第436回 6月議会

議会映像



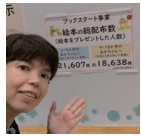
- 学校給食について
- 「ドリフト族」の暴走による騒音、青少年への悪影響について
- 放課後児童健全育成事業について
- 美里小学校のグラウンドの一部について

2025年 第438回 9月議会

- ブックスタート事業
- 特別支援教育について

2025年 第439回 12月議会

- 学校給食について
- 市立小学校の儀式等における児童の服装について
- 学校徴収金及び消耗品について
- 放課後児童健全育成事業 について



すべての赤ちゃんへ 読み聞かせ&絵本を届けるブックスタートの予算削減に疑問



ブックスタートは、絵本を通して親子の心の通い合いのきっかけを作り、絵本の魅力を知ってもらう子育て支援事業です。乳児健診会場で読み聞かせと絵本のプレゼントを受けた親子も多いのではないのでしょうか。

そのブックスタートが今ピンチ! 予算が大幅削減されてしまったのです。読み聞かせボランティアさんからは「来年度、どうになってしまうのだろう」と不安の声が寄せられています。

アンケート調査で99%の保護者が「受けてよかった」と継続を求めている市民満足度が高い事業です。

私は、市長・教育長は子どもに関わる予算を削減する前に、現場に足を運んで赤ちゃんや保護者の反応を見て判断してほしいと訴えました。15年の歴史ある教育行政を後退させてはならないと考えます。



(9月議会)

市長、議員のボーナスアップに反対

議会映像



2025年12月議会に市長をはじめとする特別職5名と、市議会議員29名の賞与を値上げする議案が提案されたため、反対しました。今回の議案は国の人事院勧告に準じたものですが、勧告に強制力はありません。物価高騰が長引き県民の実質賃金は4年連続減少、高齢者の年金は目減りしている厳しい市民の現実に配慮

議案第332号
1:48:18から審議スタート
みどり反対討論2:01:29から

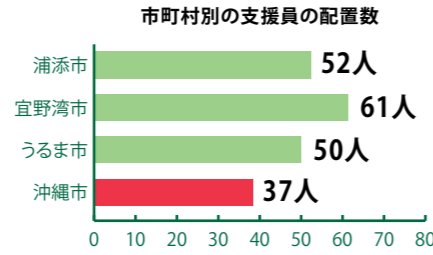
特別支援教育の充実

教員の声

支援員さんが少なくて困っている



支援員さん(特別支援教育補助者)は、支援の必要な子ども達が通常クラスで落ち着いて授業が受けられるようサポートしてくれるよ



小学校の先生から「支援員さんが少なくて困っている」という声をいただきました。支援の必要な子が通常学級で授業が受けられるようサポートする支援員(特別支援教育補助者)。支援員の言葉かけ一つで安心して落ち着く子も多いそうで、支援員の増員と待遇改善を求めました。

また、市内には学習障がい等の子が通う通級指導教室が4校しかないため、拡充を教育長に要望しました。(9月議会)

特別支援学級の名簿を混合名簿へ ~子ども達や保護者に寄り添う改善を~

父親の声

息子を区別しないでほしい



交流学級における特別支援学級の児童生徒の名簿について、通常学級との区別をなくし、混合名簿へ見直すよう訴えました。教育委員会は「他市町村の状況も見ながら今後検討していきたい」と答弁。入学式等で悲しい思いをしたり、いじめにつながった事例もあるため、早急な改善がなされるよう注視していきます。(9月議会)

給食費 保護者の願い 負担軽減 実現へ 国が小学生5200円支援決定! 市も支援の意向表明!!



2026年4月から、国が小学生5200円の支援を決定! 市も支援の意向を示していることから、負担軽減が図られる見通しです。これまで給食費負担軽減を願うママ・パパの会代表として、また議会においても給食費の負担軽減を継続的に訴えてきただけに、今回の動きは大変嬉しく思います。今年度、小中無償化を実施している市町村は県内で過半数を超えているので、沖縄市で

学童クラブの待機児童解消

学童クラブを増やし、子どもたちを安心して預けられる環境、過ごせる児童館・公園を

母親の声

学童落ちた、仕事どうしよう?



パートに切り替えた やむをえず離職

学童に小学生を預けられない家庭では、保護者、特に女性がフルタイムの仕事が続けられなくて困るんですね

市は「令和5年度に待機児童を解消すると想定します」と計画していましたが、実際には今も多数の待機児童が発生し、保護者からの悲痛な叫びが届いています。いつ待機児童はゼロになると見込んでいるのですかと私の質問に対し、市は「令和11年度までに待機児童解消と見込んでいます」との答弁でした。学童が必要なのは、今です。私は実態調査と学童のすみやかな増設を訴えています。

一方、市に定員増を求められた学童では、児童が過密化し、環境悪化が起きていて、早急な改善が必要です。仕事と子育てを両立できる環境をつくり、子育てしやすい沖縄市にしていきたい。うるま市では以前は入りやすかった時期がありましたが、学童を増やし今は入りやすくなっています。行政の姿勢次第で、解決は可能です。

また、学童以外にも、児童館、公園、子どもの居場所等について市内で地域間格差があるため、均衡ある整備が必要だと考えます。

学童クラブの運営支援

児童福祉事業である学童クラブの運営を支援することは行政の役割です。物価高騰や人件費高騰が続く、学童の運営も厳しさを増しています。うるま市など17市町村では燃料費を補助していますが沖縄市ではまだです。一刻も早く実施するよう議会で粘り強く要望しています。

また、事務負担の軽減のため育成支援体制強化や、障がい児の加配職員を通年で雇えるよう障がい児受入強化の改善を求めています。学童保育の質の向上のため、引き続き働きかけていきます。

学校徴収金の徴収管理

~学校から切り離し自治体で~

教員の声

徴収金の徴収業務の負担が大きい



先生が子ども達と向き合う時間を確保するために、教員の業務負担軽減は待ったなし!

文科省の中央教育審議会答申(2019)で、徴収業務は「基本的に学校以外が担うべき業務」で自治体が担っていくべきとされています。そこで質問すると、「徴収業務につきましては教育委員会が主となって取り組むものと認識しています。現在、学校職員との意見交換や学校徴収金システムなどの調査研究を行っているところです」という答弁でした。引き続き、教員の負担軽減に向けて働きかけてまいります。(12月議会)

も中学生を含めた無償化を目指し議会において訴えています。

給食の質の向上と安全性確保

現在、給食の質の改善が大きな課題です。6月と12月議会においては給食の栄養充足率について取り上げました。6月に改善のための予算はつきましたが、国の栄養摂取基準に対し、カロリーベースでは小学生84.1%、中学生78.3%しか満たしていないことが分かりました(10月時点)。「給食の質をなんとかしてほしい」という声が多く寄せられています。栄養士さん達との意見交換会を2度行い、栄養価のデータ資料に基づいて議会質問を行ってきました。



市内給食センターにて給食の試食

また、昨年は異物混入事故や衛生事故が発生し、不安が広がりました。子ども達の命に関わる重大なことです。給食センターの事故防止対策について保護者の視点から意見を述べました。これからも、給食の質の向上と安全性の確保を訴えてまいります。



給食の質の向上と安全が課題

式服の指定をなくし選択肢を

~家計の負担軽減、子どもの多様性尊重~

保護者の声

成長が早くて、年に数回しか着ない式服の買い替えが大変



宮里小学校では2025年から式服の指定がなくなったよ!



「学習指導要領で服装の決まりはありますか?」と質問したところ「服装の規定については示されておりません」と答弁。那覇市教育委員会では見直しを進めています。多様性尊重の観点からも選択可能にしたいと考え見解を尋ねると「各学校長の判断となりますが他市町村の取組状況について情報提供を行ってまいります」という答弁でした。(12月議会)

なぜ?ハンドソープやティッシュの保護者負担

保護者の声

1人400円から500円の負担でも、2児、3児、4児...となればその分出費は膨らんでいきます。読谷村ではハンドソープの提出はないんだって!



ハンドソープを毎学期納めるしくみはなんとかならないのですか?

兄弟が多く出費が大変



12月議会において、教育委員会に質問したところ、「学校で使用する衛生確保に直結する消耗品について、公費で買うものと認識しており、予算確保に努めてまいります」と答弁がありました。

学校徴収金の負担軽減を

保護者の声

学校徴収金の封筒が届くと、また?と困ってしまう



恩納村では4月から補助開始!

市に負担軽減を求めたところ、就学困難な家庭には就学援助があるため「全児童生徒一律の教材費用の助成については検討しておりません」と答弁。恩納村では所得にかかわらず教材費の補助が2026年4月からスタート。その目的は、教育環境の魅力向上によって定住促進を図ることだそうです。沖縄市でも2022年から人口減少が始まっており、子育て世代の定住促進は重要です。高齢者福祉を支えるためにも現役世代の定住は必須。人口減少対策の観点からも、子育て世代の負担軽減を求めてまいります。